平成 29 年度 帝京大学大学院公衆衛生学研究科　自己点検・評価

平成 29 年 6 月
公衆衛生学研究科　自己点検・評価委員会

本研究科の自己点検・評価を平成 28 年度中長期計画のアクション・プランに基づき、「実施計画」「活動実績と評価」「問題点と改善方策」との項目に分けて行った。

1．教育研究活動の充実

①急速に変動発展する国際社会と科学技術に対応するために必要な、変革を先導し管理できる人材（Change Agent）を養成することが急務だといわれています。そのため、各種講義、実習、課題研究を問題解決型アプローチに則り、コンピテンシーを高める教育を実践するよう、教育プログラムの検証と改善を行っています。その一環として平成 27 年度からはランチョンセミナーを開始し自己主導型学習の拡充を図る、課題研究指導にグループ指導性を取り入れるなどの取り組みを行っております。今後も、科学的・学術的研究と実践教育との融合を図ったカリキュラムの改善を行っていきます。

活動実績と評価

・修士課程の課題研究の進捗についてはグループ指導制を取り入れ、サブグループごとに進捗状況の報告会を開催しました。これにより指導教員以外の教員からもコンピテンシーの評価を受けることが可能となりました。さらに、学生部会において毎月一回全教員で学生の状況を共有して、指導の充実を図りました。また、直近の公衆衛生学上の課題に対応するために、平成 28 年度に開講された科目から修士課程では 5 科目、博士課程では 1 科目を廃止し、代わりに、平成 29 年度に修士課程では 10 科目、博士課程では 5 科目を新設しました。

問題点と改善方策

・博士課程においては、特殊研究の進捗状況にばらつきが存在しています。学生部会において毎月一回全教員で学生の状況を共有する際に、標準化した様式で特殊研究の進捗状況を把握することで、指導体制をさらに強化します。また、博士課程学生の月例報告提出を徹底し、在学期間中に提出した報告を学生のポートフォリオの一部として卒業時の評価に利用することにし、フォローアップ体制を構築します。

②平成 28 年 9 月には米国ハーバード大を始め世界各地から講演者を招き、新しい医療における教育システム等を含めたシンポジウムを教員の FD として開催し、次世代の担い手を発掘・育成するよう、推進していきます。

活動実績と評価

・計画の通り、平成 28 年 9 月に、帝京ハーバード特別講義ならびに 50 周年記念国際学術会議として FD を実施し、約 450 名の教員が参加しました。

問題点と改善方策

・平成 28 年度の実施については特に問題はなかった。今後、今回のように、学部等を超えた全学的な FD の継続的な実施が望まれます。

２．教育研究環境の整備

③研究・教育助成金の申請に関しては、随時関連申請の締め切りなどがある場合は、早めに察知し教室員に連絡します。各申請内容に関して、申請者からの記載内容の確認など申請相談の希望がある場合は、個別に検討し対応します。

活動実績と評価

・研究・教育助成金の申請に関しては、随時関連申請の締め切りなどがある場合、申請の要点をまとめ形で教室員に連絡しました。昨年同様、各申請内容に関して、申請者からの記載内容の確認など申請相談の希望がある場合は、個別に検討し対応しました。

問題点と改善方策

・申請の締め切り間際で、連絡する例があったため、前年の申請時期を考慮し、さらに公募申請状況を調査し、関連申請の案内を行うよう対応する予定です。

④大学院公衆衛生学研究科では設置当初からひとりひとりの学生に対し、アカデミックアドバイザーを配置し、毎月担当学生と面談し、学習、学校生活、進路支援等を行うとともに、毎月 1 回行う学生部会において全教員で学生の情報を共有し、問題を抱えた学生の早期発見に努め、指導の充実をはかっていきます。

活動実績と評価

・当初の計画通り、平成 28 年度は学生ひとりひとりに対し、アカデミックアドバイザーを配置し、毎月担当学生と面談し、学習、学校生活、進路支援等を行いました。さらに、毎月 1 回行う学生部会において全教員で学生の情報を共有し、問題を抱えた学生の早期発見に努め、指導の充実を図りました。

問題点と改善方策

・ほぼ当初の計画通り、アカデミックアドバイザーがうまく機能していたため、大きな問題はありませんでした。来年度からは学生からの AA の積極的な活用を求めることとします。

⑤専門職大学院として実務的能力を身につけた学生たちが活躍しうる場を提供するために、国連機関、官公庁、企業、NGO 等で活躍する人材との交流機会を作っていきます。

活動実績と評価

・進路セミナー（4 回/年程度）の実施を行い、通常の講義では得られない専門職員との対話や就業に関する情報を在校院生に提供しました。

問題点と改善方策

・平成28年度は本学でAPACPHを開催した関係で、例年以上に多数の著明な専門家の話をAPACPHにおいて聞く機会があり、実際に対話する機会を設けることが出来ました。本研究科も 2011 年に設立され卒業生が各地で活躍するようになっており、同窓会を通じて OB・OG のネットワークの有効活用することを検討します。

⑥専門職大学院学生の学びの機会を保証するため、各種奨学金への情報を提供してい行きます。

活動実績と評価

・専門職大学院学生の学びの機会を保障するため、各種奨学金や研究助成金に関する情報提供を逐次おこないました。

問題点と改善方策

・社会人大学院生を対象とした奨学金は本邦では限られているが、機会を逃さず情報提供しました。入学内定者に対して奨学金・研究助成金に関する情報提供を行いました。

3．大学運営組織の再構築

⑦大学院公衆衛生学研究科では独自のホームページを作成し、担当教員を配置し、より専門性に応じた情報の公表に努めていきます。

活動実績と評価

・計画の通り、担当の教員が専門性に応じた情報の発信を行い、研究科ホームページを毎月数回更新し教育活動・研究業績を公表するとともに、Facebook、メーリングリスト等、適切な媒体による情報公開に努めました。

問題点と改善方策

・平成 28 年度の活動については特に問題はなかった。今後も継続的に教育研究活動等の情報の公表を行っていきます。

⑧毎年 1 月に実施する帝京ハーバードプログラムの一環としてハーバード教授によるミニ講義を公開する、シンポジウムやセミナー等を随時公開として実施するなど、一般社会人に対しても学習機会の提供を行うよう図っています。さらに、平成 28 年 9 月に実施する帝京大学 50 周年記念国際学術集会の一端として、公開市民講座を予定するなど、社会人連携に関するプログラムを展開していきます。

活動実績と評価

・平成 28 年度はハーバード教授によるミニ講義は実施しませんでしたが、ハーバード教授による講義の一日体験コースを設け、一般社会人も参加しやすい形態を取り入れて実施しました。さらに JASSO 枠の拡大を図り、海外提携校からの参加や大学間連携を推進するように図りました。平成 28 年 9 月に実施した帝京大学 50 周年記念国際学術集会の一端として、3 つの公開市民講座を実施し、社会人連携に関するプログラムとして展開しました。

問題点と改善方策

・ハーバード教授によるミニ講義は日程等の制約等もあり実施しなかったが、ハーバード教授による講義について一日体験コースを設け、一般社会人も参加しやすい形態を取り入れられて実施しました。また、平成 28 年 9 月に実施した帝京大学 50 周年記念国際学術集会においては海外からの参加者との多彩な教育・研究に関する議論を行う機会を得られました。これは今後の大学間連携の推進に役立つと考えられ、今後はさらに専門領域での多彩な教育・研究に関する議論を行う機会を増やし、大学間連携の推進を展開していきます。

⑨各種広報媒体を通じて帝京大学公衆衛生学研究科の行事や日常の教育・研究を社会に発信することにより、公衆衛生に従事する者だけではなく、広く帝京大学の持つ教育力や研究力を普及させ、実学と国際性を重んじる大学としての地位を確立していきます。特に、ホームページやニュースレターを通じた発信、適宜行うプレスリリースを用いて情報発信を続けます。

活動実績と評価

・オリジナルホームページでの情報公開項目を増やし、かつ迅速な情報公開を行うことで、本学の状を一般に広く公開することができました。海外への情報発信の重要性を鑑みて、英語版オリジナルホームページを新たに立ち上げることができました。また、視覚的に訴えるために、画像データを多く取り入れるようにしました。

メーリングリストでの情報の公表、学会ブース（日本公衆衛生学会、帝京大学 50 周年記念国際学術集会）設置、研究科ニュースレターの配布などを通じて、本学のイベントの情報を広く発信しました。特に英語で開催されるイベントについては海外の学術提携校にまでその対象を広げました。

問題点と改善方策

・大学の公式ホームページとオリジナルホームページとの接続性が課題であることが判明し、次年度は帝京大学広報課担当と改善の取り組みを行うことにしました。

・入学学生が利用している情報源が、職場の上司や同僚、本学卒業生である場合が多かったことから、そのような対象に向けた効果的な情報発信に努めます。

・多言語で作成している研究科パンフレットの頻回の更新が課題であることが認識された。維持可能な言語数・記載内容の選択を検討することとした。

⑩板橋キャンパスにおいて、卒業生を講師としてキャリアセミナーを開催したり、同窓会を開催することで、直接的な交流の場を設けるとともに、メーリングリストを活用した情報交換等を積極的に行うことで、卒業生とのネットワークを強化します。

活動実績と評価

・板橋キャンパスにおいて、APACPH2017 に合わせて開催された卒業生による企画を支援しました。また、同窓会に依頼をし、卒業生を入試説明会や卒業式等の行事に参加してもらい、在校生との交流の機会を設けました。さらに、卒業生メッセージを研究科ホームページに寄せてもらいました。メーリングリストによる卒業生への学術情報等の情報提供もおこないました。

問題点と改善方策

・進捗状況としては問題ないと認識していますが、卒業生を講師としたセミナーの開催頻度を上げることも考えています。

４．国際化の推進

⑪50 周年事業の一環として、平成２８年度に帝京大学が幹事校として開催する APACPH（アジア太平洋公衆衛生学会）において、次世代の保健医療職（Competent Professionals)教育の在り方について板橋キャンパス全体として広く社会に発信できる場を実現するともに海外提携校を含めたアジア太平洋地域との絆をより一層深めていきます。

活動実績と評価

・特に問題点はありませんでしたが、今後も継続してこうした人的つながり、学術交流、若手の研究や教育への国際的取組を継続させていきます。

・帝京大学公衆衛生大学院がハーバードやオックスフォード等の欧米の提携大学の支援も得てアジアの公衆衛生活動のハブとなり、将来的にはアジアからも多くの学生を受け入れるという大学全体の国際活動の目標の中での重要なステップとなりましたが、それが次の具体的な活動であるハーバード特別講義やサマースクールへつなげ参加者募集に誘導していくという点で、必ずしも十分でなかったと考えています。個別の大学について担当者を決め顔の見えるつながりを作り提携の実質化を強めるという意味で十分ではない相手先もありました。

問題点と改善方策

・第 48 回 APACPH は成功裏に終了しました。約 30 ヶ国の参加者が来日し、4 日間の会期中に次世代の保健医療専門職の教育について議論しました。特に提携校であるハーバード大学やオクスフ

ォード大学、北京大学などはもとより、実務に関わるＷＨＯやグローバルファンドなど国際機関からの演者も参加しました。

また、当日は若手による発表も多く、本学からも公衆衛生学研究科の学生が多く発表し、アジア太平洋からの参加者らと共に研究成果を報告しました。医学部や医療技術学部からの発表もあり、国際交流活動を通じて学部の垣根を超えた学術的交流も行うことができました。

⑫欧米、アジア等の提携校との連携を推進し、帝京ハーバード特別講義の単位互換の実現、公衆衛生学研究科専門職学位課程の必修科目の一部（疫学、健康政策・管理学、社会行動科学）での短期留学生向け夏期集中コースの開設をめざします。

活動実績と評価

・平成 29 年 8 月に Healthcare Management と Universal Health Coverage & Aging Society の 2 つの短期留学生向け夏期集中コースを実施することとなりました。

問題点と改善方策

・短期留学生向け夏期集中コースの開設という当初の目的は達成しました。海外提携校などに対する本コースの案内を今年度から行います。

⑬海外提携校からの留学者数を増やすための方策として JASSO 等の奨学支援金を獲得します。

活動実績と評価

・JASSO 奨学金を繰り上げ取得したことにより、1 月のハーバード特別講義には、10 名の短期留学生を招聘することができました。

問題点と改善方策

・次年度以降も、奨学金取得を確実にするため、長期的には他校との MOA 締結等を通して単位互換を進めていく必要があります。

⑭グローバルオフィス委員会と連携・協働して、欧米・アジアの提携校との研修プログラム、共同研究等を推進します。環境保健、専門職教育等の分野で共同研究を行い、学術交流の実績を残すことにより、海外交流の実質化にとりくみます。

活動実績と評価

・環境保健領域でインドネシアのアトマジャヤ大学を中心に大気汚染健康影響についての共同研究が進行しており、チュラロンコン大学、北京大学、さらにマラヤ大学やカンボジアの大学とも交流が行われました。

問題点と改善方策

・活動の基礎となる研究費の獲得ができておらず、当初計画した経時的な観察に基づく自然実験研究ではなく既存のデータを収集・解析することにとどまっています。それでも必要となる経費については個人の負担で行われているが、研究費獲得について組織的な技術支援が必要と思われます。

⑮ASEAN 諸国（フィリピン、タイ、インドネシア等）、台湾、中国等の提携校をさらに拡大しつつ、実質的各術交流をさらに深めていきます。これらのとりくみの中で、医学部、看護学部、薬学部、理工学部との連携を実現し、板橋キャンパスにとどまらず、本学全キャンパス、帝京グループ全体の関わる取り組みに広げます。

活動実績と評価

・グローバルオフィスを通しての情報交換で、インドネシア、メキシコなどで他学部の提携から紹介されての医療公衆衛生系の学術交流が始まりました。
一方、環境部門の研究を全学的に取り組もうとする経過の中で八王子経済学部とのつながりができ、ケンブリッジ大学との提携による特別講義とシンポジウムが計画されるようになりました。

問題点と改善方策

・看護や薬学部は相手方からの交流要望が強いが、それに応じる帝京側の当該領域の体制が整わず目立った成果はありません。
・国際活動を全学的に取り組み強化していく体制を作る計画があるが、その体制の下、個別の学部領域を支援指導していく必要があります。

⑯ハーバード大学と共同で博士課程（DrPH)の国際標準の教育モデルの研究開発を行い、本研究科のカリキュラムに導入します。

活動実績と評価

・来日したハーバード大学の Dr.Berman 教授と相談し、ハーバードと帝京でＤｒＰＨのコンピテンシー基盤型教育に関する内容を公表することで合意しました。帝京は平成 29 年 3 月、ハーバードは平成 29 年 6 月に当初設計されたＤｒＰＨコースの最初の卒業生が出るため、公衆衛生専門職のコンピテンシー基盤型教育モデルを公表できるようすすめています。

問題点と改善方策

・コンピテンシーに関する学内の評価体制を立て直し、特に博士課程の学生に関する指導方法に改善の必要があることがあげられました。
ハーバード大学との連絡を密接に行い、教育方法の開発に関する論文公表に向けてすすめることが望まれます。

⑰公衆衛生学研究科のアドミッション・ポリシーの点検を年度毎に実施し、必要に応じて修正を加えます。

活動実績と評価

・公衆衛生学研究科のアドミッション・ポリシーの点検を実施しましたが、特段変更の必要性はありませんでした。

問題点と改善方策

・公衆衛生学研究科のアドミッション・ポリシーの点検を年度毎に実施し、必要に応じて修正を加えます。

⑱現状での第一目標は入学希望者（受験者）数増加です。その上で入学後の成績や卒後の進路からフィードバックを受けて、入学者受け入れ方針が適切であったかを継続的に検討します。

活動実績と評価

・第一目標は入学希望者（受験者）数増加を達成し、定員数を満たすことができました。

問題点と改善方策

・今後も定員数を満たす受験生の確保を継続することが必要です。